

# 水土里ネットの和

発行：水土里ネット和歌山（和歌山県土連） 和歌山市雑賀屋町1番地  
会長：二階俊博 TEL：073-432-2567 FAX：073-433-1490



## 主な内容 (CONTENTS)

○新年のご挨拶	2
二階俊博水土里ネット和歌山会長（全国水土里ネット会長）	
進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問	
宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問	
○第42回全国土地改良大会（岐阜大会）への参加	5
○土地改良区連絡協議会職員研修会（滋賀県・奈良県）	7
○和歌山県土地改良区役職員研修会（徳島県）	7
○令和元年度農業農村整備の集い（11月）への参加	8
○令和2年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動	8
○近畿農政局南紀用水支所閉所式	9
○令和元年度第2回監事会及び理事会の開催	9
○わかやま水土里ネット女性の会交流会	10
○農業農村整備事業令和2年度当初予算、令和元年度補正予算が閣議決定	11
○農業用ため池の届出制度始まる	11
○水土里ネット和歌山からのお知らせ	12

## 新年のご挨拶



### 新年にあたって

水土里ネット和歌山  
和歌山県土地改良事業団体連合会  
会長 二階 俊博

令和二年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。昨年は、六月、八月の大雨、さらに台風第十五号、第十九号による暴風雨等により、全国各地で非常に多くの災害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災をされた多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、復旧・復興のために、被災地の最前線に立って日夜ご尽力頂いている多くの土地改良関係の皆さまに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて私は、全国土地改良事業団体連合会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、平成から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和二年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、昨年度当初予算を上回る4,433億円を確保することができました。さらに、令和元年度の補正予算・臨時特別措置枠を含めると6,515億円となります。皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

また、昨年七月の参議院選挙におきましては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に十二年ぶりの「車の両輪体制」が実現したわけです。

このように土地改良は、新しい元号「令和」の幕開けにふさわしいスタートを切ったわけであり、これも一重に「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方の御協力の御陰であります。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。特にここ数年は大規模な風水害により、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いており、平成三十年の七月豪雨では、全国で三十二カ所のため池が決壊し、尊い人命も犠牲になるなど未曾有の被害が発生しました。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、二年続けて土地改良法が改正されるとともに、老朽化したため池の整備について抜本的な施策を講ずるため、長年の懸案であった「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が国会で成立、施行されました。さらにいま、政府・与党では「食料・農業・農村基本計画」の見直しも議論されているところであります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様々にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が和歌山県の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます、私の新年のご挨拶といたします。



## 新年のご挨拶

都道府県水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員 進藤金日子

新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。昨年は、「令和」の御代に移り、多くの国民が寿ぐ中で天皇陛下が御即位されました。「令和」の時代が平和で穏やかであるようにあらためてご祈念申し上げる次第です。他方、昨年も多くの自然災害が発生しました。被災された全ての方々には心からお見舞い申し上げます。今年こそは災害の無い年になるように祈念して止みません。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、総務大臣政務官としての私の担務である「国勢調査」（初回開始後百周年）も行われます。多くの国家的な行事の成功に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さて、昨年末に令和元年度補正予算と令和2年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,515億円（対前年度比64億円増）を確保できました。これも偏に、農業の競争力強化と美しい農山村の形成に不可欠な土地改良の実施に向けての現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、引き続き「国土強靱化」に重点が置かれたこと、水田の高度利用対策が更に重点化されたこと、農業の競争力強化に加えて中山間地域等の条件不利地域の振興対策が手厚く措置されたことだと捉えています。予算の増額措置により土地改良が更に促進されますが、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

昨年末、自民党農村基盤整備議員連盟総会において、ため池の整備促進を図る特別措置法を議員立法として検討することが提案・了承されました。ため池の保全管理を図る法律は、昨年制定・施行されましたが、整備促進に関する多くの課題が現場から提起されています。現場の実態に真摯に耳目を集めつつ検討を深め、与野党問わず多くの国会議員のご理解を得るべく努力してまいり所存です。

このような国政での取り組みに加えて、地方の皆様の声を取り取ることも出来る限り行っております。昨年11月には、11日の農業農村整備の集いのあとの水土里ネット和歌山の懇親会の場で、ご参加の市町村長や土地改良区理事長と日頃の取り組みの情報交換を行ったり、また、17日には田辺市上芳養地区の野生鳥獣用食肉処理施設「ひなたの杜」で行われた全国水土里ネットの二階会長やJA全中の中家会長の視察に同行して、ジビエ弁当の試食や地元の若手農家との意見交換会を行い、ジビエを活用し獣害を克服しようとする取り組みについて話し合ったところです。

また、有田川以南の土地改良区の若手職員との意見交換会では、土地改良区が抱える課題や意見を聞かせて戴き、翌週25日には、総務政務官として和歌山市での公務の合間を縫って、伊都郡かつらぎ町で和歌山県の土地改良関係の女性の会の面々と意見交換を行い、土地改良に関わる女性同士が情報交換をしやすい場をいかに作っていくかなどについて話をさせて戴きました。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫さんも参議院議員として活躍しております。これも皆様方のご理解とご支援の賜物です。宮崎議員と私とが水鳥の強固な水掻きとしてフル稼働して、皆様と連携しながら「闘う土地改良」を共闘し、引き続き諸課題の解決とともに令和の新たな時代を切り拓くべく専心努力してまいり覚悟ですので、ご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

貴会の益々のご発展と本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



## 新年のご挨拶

都道府県水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員 宮崎 雅夫

新年明けましておめでとうございます。

和歌山県の土地改良関係の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私にとっての昨年は大きな前進の年でありました。一昨年1月から、土地改良の推進、農山漁村の振興のため、地球8周分に当たる30万キロ以上を移動しながら全国各地をお伺いし、地域の状況を自分の目で見て、皆様からのご意見を自分の耳で聞き、私の考えを自分の口で話をさせていただくなどの政治活動を行ってまいりました。和歌山県の皆様をはじめ全国の皆様からご支援をいただき、お陰様をもちまして昨年7月末の参議院議員通常選挙において当選の栄に浴することができました。

当選後、8月1日に召集された臨時国会で初登院し、10月4日に召集された臨時国会では、農林水産委員会、決算委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会、資源エネルギーに関する調査会に所属しております。農林水産委員会等で3度質問に立たせていただき、土地改良の推進や予算の確保などこれまでの活動中皆様から頂いたご意見を私の質問として農林水産大臣等にしっかり伝えました。党での各種部会での発言なども含め、皆様と国政を繋ぐパイプとしての役割を果たせるよう日々努力してまいります。

昨年も残念ながら台風19号をはじめ一連の自然災害により、農地や農業用施設も全国各地で大きな被害が広範囲で発生いたしました。早期の復旧はもちろんですが、土地改良の農村で果たす大きな役割を踏まえ、防災・減災、国土強靱化の取り組みを強力に進めていかなければなりません。

ため池の耐震対策・豪雨対策などのハード面やハザードマップの整備などのソフト面の対策は待ったなしです。政府の「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」による集中的な取り組みが終了する令和2年度以降も更に取り組みが促進するよう全力で取り組んでまいります。

そして、それぞれの地域農業が発展するための基礎となる基盤整備は、着実に進めていかなければなりません。省力化だけではなく若者の興味も高めるスマート農業は平地のみならず中山間地も推進していく必要があります。そのためには情報基盤の整備を含め基盤整備は欠かすことのできないものです。

これらの計画的な実施には、土地改良予算の安定的な確保が必要不可欠です。皆様からの大変大きなご支援により、令和2年度は、臨時特別措置枠を含む当初4,973億円と令和元年補正1,542億円の計6,515億円を確保することができました。今後ともこの流れを止めることのないよう尽力してまいります。

また、産業政策だけではなく、家族農業や中小規模の農家、兼業農家の役割を再確認しつつ、地域農業、農村集落自身を守っていくための地域政策をバランスよく実施していかなければなりません。農政の基本となる食料・農業・農村基本計画の5年に一度の見直しが進められていますが、その中にもしっかりと位置づけられる必要があります。

私は「土地改良、農山漁村は未来への礎」と訴えてまいりました。令和の新しい時代に皆様のご意見を伺いながら土地改良を推進することにより、世界に誇る我が国の素晴らしい農山漁村を子供たち孫たちに引き継げるよう、先輩の進藤金日子参議院議員と力を合わせて努力をしております。12年ぶりに土地改良二人体制となり、人口減少社会に突入した我が国の状況を踏まえ、土地改良も必要な見直しも大胆に進めていきたいと考えております。また、農村女性の創造力や企画力、行動力などは、これからの農村振興を加速する重要な原動力と考えています。昨年12月には「全国水土里ネット女性の会」が設立されたところであり、今後の活発な活動に私もお手伝いをさせていただきたいと思っています。引き続き進藤議員と私にご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

今年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、更に多くの外国人の方が日本に来られることが期待されています。日本の農業、農村のすばらしさを皆様どんどん発信してまいりましょう。最後に、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 第42回全国土地改良大会(岐阜大会)

令和元年10月16日(水)、『岐阜メモリアルセンターで愛ドーム』において第42回全国土地改良大会(岐阜大会)が、約4,000人の土地改良関係者の参加のもと盛大に開催され、和歌山県内からは38名が参加しました。

岐阜大会は「清流で未来をうるおす土地改良 水土里の恵を新たな世代へ」をテーマに、農業を魅力ある産業としていくために、土地改良事業が果たす役割、水土里ネットが目指す道しるべについて、「清流の国ぎふ」から全国津々浦々に発信すべく大会が開催されました。

冒頭、岐阜県土連の藤原会長の開催挨拶に続いて、全土連の二階会長による主催者挨拶がなされ、このたびの台風19号により多くの被害が発生しているが、被災地の苦労を克服し一日でも早く元の生活に回復していくことが私たちの最大の務めであると考え、出来ることは全て行っていくといった力強い挨拶を戴きました。

会場にて記念撮影



二階会長挨拶及び来賓挨拶



## 土地改良表彰(受賞者の紹介)

式典に続いて行われた土地改良事業功績者表彰では、日高川土地改良区の北岡俊彦理事長が、農林水産大臣表彰、また貴志川土地改良区の松本哲茂理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。農林水産大臣表彰は、県内で4人目となります。



栄えある功績者表彰のお二人

翌、17日(木)は現地視察があり、和歌山県からの参加者は、岐阜・中濃コースのうち、県営かんがい排水事業で整備された岐阜中流用水を高台から見学し、また平成27年に世界かんがい施設遺産に認定された曾代用水について、紙芝居「曾代用水物語」でその歴史を学びました。

その他、関鍛冶伝承館・岐阜県刃物会館にて700年以上の歴史がある関の刃物について見学をしました。

岐阜中流用水を見学



曾代用水の紙芝居



## 土地改良区連絡協議会職員研修会(滋賀県・奈良県)

令和元年10月10日(木)から11日(金)にかけて、和歌山県土地改良区連絡協議会の会員のうち、18土地改良区の職員並びに、県の農業農村整備課、里地里山振興室の職員による職員研修会が滋賀県、奈良県で行われました。参加者は26名。

滋賀県では、魚のゆりかご水田プロジェクトについて、現地水田の見学を行うとともに、せせらぎの郷(須原魚のゆりかご水田協議会)代表の堀彰男さんから取り組みについての説明を受けました。また、奈良県では、(株)丸島アクアシステムで水門等の新たな研究についての説明を受け、工場で製作している岩出狭窄部拡幅水路に設置する転倒ゲートの見学を行うとともに、(株)ユーテック五条工場では、電動油圧システムによる水門の開閉装置や遠隔操作等について説明を受け、日頃の施設管理負担の軽減の参考にするなど、2日間に渡る有意義な研修となりました。

水田のゆりかご 現地見学



(株)丸島アクアシステムでの説明



## 土地改良区役職員研修会(徳島市)

令和元年10月30日(水)から31日(木)にかけて、本会会員の18土地改良区の役職員、県の農業農村整備課による役職員研修が徳島市にて行われました。参加者は35名。

水土里ネット徳島の宗本次長の案内で水土里ネット川内の坂東理事長から太陽光発電を導入して土地改良区経営を安定させた取り組みや、榎山農園の榎山代表からフルーツトマトのハウス栽培から多角的に農業経営を拡大させ、地域から多くの農地を受託していること、また水土里ネット小松島市南部の稲田理事長からは、ほ場整備された農地の施設管理に伴う課題などについて説明を受け、意見交換を行いました。

水土里ネット川内では、排水機場の管理にかかる費用を区域内の非農家からも負担(賦課金)してもらっており、他目的使用に係る住民負担のあり方について考える機会となりました。

坂東理事長との意見交換



榎山代表の説明



## 令和元年農業農村整備の集い(11月)への参加

令和元年11月11日(月)、全国水土里ネットと都道府県水土里ネットの共催による「農業農村整備の集い」が、シェーンバッハ・サボーにて盛大に開催されました。本県からは、中山副会長をはじめ28名の会員が参加しました。

6月の集いに続けて本年度2回目となりますが、年末の概算決定に向け土地改良予算の満額確保を目指し、全国から集まった土地改良関係者により国への要請文が決議されました。

主催者挨拶で二階会長は、まず台風被害に対する災害復旧に尽力することはいうまでもなく、参議院選挙での宮崎雅夫氏の当選に対し全国の土地改良区幹部の皆さんの多大な協力に感謝を述べ、今後、車の両輪となって土地改良が推進されることを大いに期待するとともに、令和2年度予算編成には高みを目指して闘っていくとの挨拶がありました。

来賓では江藤農林水産大臣、森山国会対策委員長、西川公也内閣官房参与、進藤、宮崎の両顧問からも力強い挨拶がありました。

二階会長の主催者挨拶



宮崎顧問の祝辞



## 令和2年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動

令和元年11月11日(月)、農業農村整備の集い終了後、自民党本部の幹事長会議室において、和歌山県国営総合農地防災推進協議会、和歌山県土地改良事業団体連合会、和歌山県ため池保全整備連絡協議会からの提案活動として、中山有田川町長(県土連副会長)、畑中由良町長(ため池保全整備連絡協議会会長)らが合同で、令和2年度の農業農村整備事業予算の確保、事業推進等に係る提案を二階幹事長と同席の鶴保参議院議員、宮崎参議院議員に対して行い、ため池対策、紀の川の砂利採取、撤去などについて意見交換を行いました。

その後、二手に分かれ、県選出国會議員及び財務省主計局の角田次長、齊藤主査への提案活動を行い、翌、12日(火)には、農林水産省農村振興局への提案活動を行いました。

### (提案内容)

- 1 農業農村整備事業推進に必要な予算枠の確保
- 2 中山間地域等直接支払制度5期対策の確実な実施、遡及返還の原則廃止及び棚田地域振興法に基づく棚田地域への支援、並びに多面的機能支払い制度の事務の簡素化及び事業推進費を含めた予算の確保
- 3 ため池の適切な管理や保全体制の整備を推進するため、必要な地方財政措置を確実に講じること
- 4 国営総合農地防災事業和歌山平野地区の推進



自民党幹事長 応接室にて



農水本省 安部整備部長室にて



和歌山県土連 懇親会場にて



## 近畿農政局南近畿土地改良調査管理事務所南紀用水支所閉所式

平成23年の紀伊半島大水害に大きな被害を受けた南紀用水施設の国営施設応急対策事業が、本年度で完了することから平成28年度から設置されていた南紀用水支所が閉所されることとなり、令和元年11月7日（木）に田辺市のガーデンホテルハナヨにて多くの関係者の参集のもと閉所式が開催されました。

近畿農政局農村振興部前田部長が式辞を述べ、和歌山県農林水産部農林水産政策局松浦局長を始め、みなべ町小谷町長、田辺市大谷副市長、南紀用水土地改良区松川理事長が祝辞を述べられました。

関係の皆さんからは、国営南紀用水事業2期地区の早期取り組みについて期待する声が聞かれました。



近畿農政局 前田部長 式辞

## 令和元年度第2回監事会及び理事会の開催

令和元年度第2回監事会が12月24日（火）に和歌山県土地改良事業団体連合会の役員室にて、第2回理事会が12月26日（木）に和歌山市民会館会議室において開催されました。

監事会では、令和元年度の会計予算の補正についてを議事として、各監事から意見を戴き、また、理事会では、冒頭に県の井賀農業農村整備課長から令和2年度の土地改良予算の内容について、情報提供戴き、議事では、令和元年度会計の中間執行状況報告並びに会計予算の補正について審議され、承認されました。

## わかやま水土里ネット女性の会交流会(かつらぎ町)

令和元年11月25日(月)、わかやま水土里ネット女性の会交流会がかつらぎ町あじさいホールで開催されました。参加者は、南紀用土地改良区理事の二葉美智子さんを始め県内土地改良区の女性職員、並びに県農業土木関係の女性職員、県土連女性職員の22名に加え、招待を受けた愛知県の水土里ネットほの国女性部会の彦坂会長ほか3名を併せ、25名の参加となりました。公務の合間を縫って、進藤金日子政務官、宮崎雅夫議員も交流会に参加して戴きました。

当日は、中阪かつらぎ町長の歓迎挨拶ののち、進藤政務官による国政報告に続いて、参加者全員で活発な意見交換が行われました。

意見交換では、土地改良に関わる女性同士が情報交換をしやすい場づくり、ネットワークが必要だとの意見が出され、全員でその取り組みを進めていくとの共通認識がされました。

11時から、場所を『四郷カフェ』に移して、宮崎議員を囲んで昼食を取りながら和気藹々と交流会が行われました。その後、かつらぎ町四郷大久保集落の柿農家の堂本さんの協力を得て、串柿の柿剥き体験研修が行われ、参加者一同、貴重な経験が出来たと喜んでいました。



意見交換会の記念撮影



進藤政務官 国政報告



四郷カフェにて

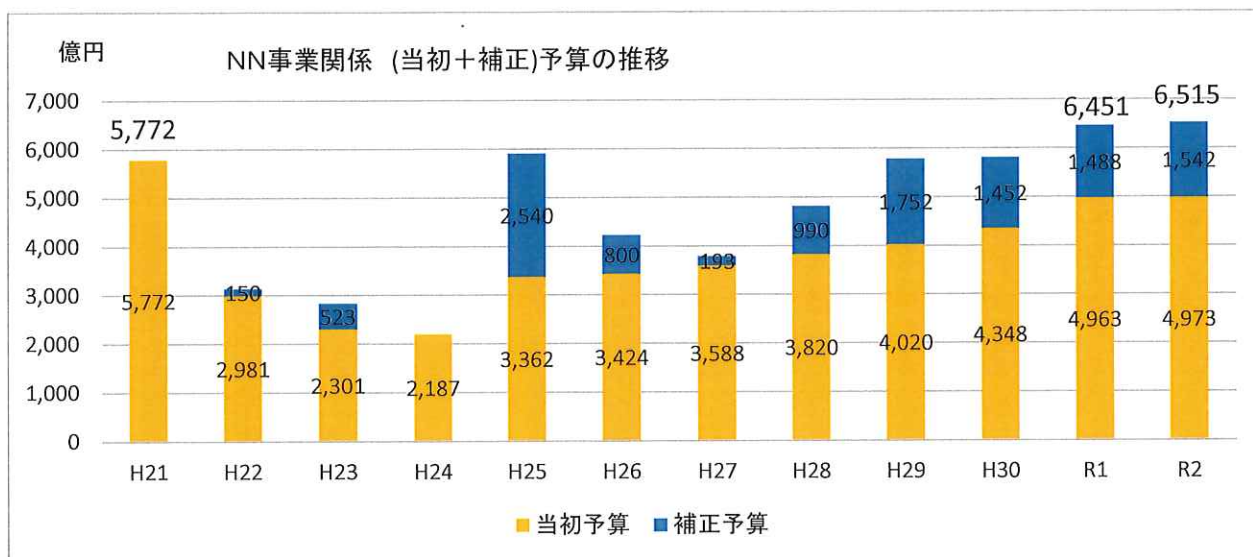
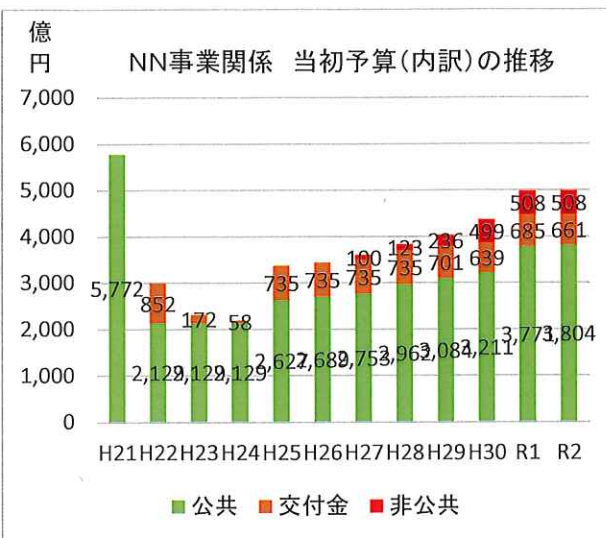


堂本さん宅で柿剥き体験

## 農業農村整備事業令和2年度当初予算、令和元年度補正が予算閣議決定

農業農村整備事業(公共)の令和2年度当初予算は、農業の競争力強化のための農地の大区画化や汎用化・畑地化、新たな農業水利システムの構築、国土強靱化のための農業水利施設の長寿命化・耐震化対策、ため池の改修・統廃合等を推進するための予算として、公共予算に加え農業農村整備関連事業(非公共事業)及び農山漁村地域整備交付金の農業農村整備分と併せると対前年比100.3%の4,433億円となりました。

これに当初の臨時特別措置枠540億円並びに令和元年度2次補正1,542億円を併せると、6,515億円となり、平成21年度の予算削減前の水準を大きく上回りました。



## 農業用ため池の届出制度始まる

「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が施行されました。

令和元年7月1日、農業用ため池の情報を適切に把握し、決壊による被害を防止するため、「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が制定されました。

この法律では、すべての農業用ため池を対象に、

- ・所有者等による適正管理の努力義務
- ・所有者等による県へのため池情報の届け出を義務付け
- ・県によるため池データベースの整備、公表
- ・ため池の適正な管理が行われていない場合、県による勧告が規定されています。

農業用ため池の所有者や管理者の方は、ため池に関する情報を県に届けてください。

## 水土里ネット和歌山からのお知らせ

- (1) 第62回和歌山県土地改良事業団体連合会の通常総会を以下のように予定しています

令和2年3月20日(金) 「ルミエール華月殿」にて開催

通常総会 15時～16時半

役員会 16時半～17時

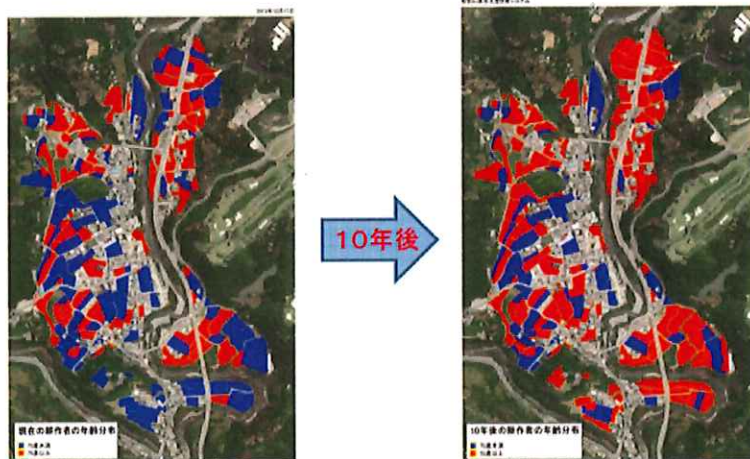
会員懇親会 17時～19時

来賓として、知事、都道府県水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子議員、宮崎雅夫議員ほかを予定しています

- (2) 水土里情報システムを「人・農地プラン」の実質化に活用

### 人・農地プラン実質化に必要な現況把握

**水土里情報システム**を活用すれば、5年後、10年後の耕作者の年齢分布が簡単に表示できる。



75歳以上の耕作者が大多数を占めることがわかる。

※地域の話合いの基礎資料に活用

水土里情報システムを活用して、農地の貸し付けに関する意向や基盤整備の実施に関する意向、作物生産に関する意向などに加えて、耕作者の将来の年齢分布などを視覚的に表示することで、地域の話合いの基礎資料とすることが出来、これにより、人・農地プランの実質化が期待できます。

水土里ネット和歌山は、水土里情報を活用して、農地集積を応援します。

(担当 技術情報課 榎本)

- (3) 水土里ネット和歌山では、弁護士による土地改良区法律相談、複式簿記化等に対する税理士相談についても対応しています。日頃の業務で、お困りのことがありましたら、水土里ネット和歌山事務局 総務指導課までお気軽に相談してください。(担当 総務指導課 西本)

### 【編集後記】

令和元年度は、関東以北で台風被害や豪雨被害が各地で発生し、農業生産にとっては厳しい年となりました。幸い、本県での大きな被害は免れましたが、毎年のように大規模な災害が発生し、いつ何時も同じような被害に遭うとも限りません。今こそ、国土強靱化に向け、防災・減災対策を充実させるべきと考えます。会員の皆さまにおかれましては、ため池対策を始め、身近なところから着実に取り組まれるようお願いいたします。